

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

流域の水源林を守りながら、優良大径材を生産する林業経営体

○氏名又は名称 磯村産業株式会社 倉渕事業所（代表 磯村 欽三）

○所在地 群馬県高崎市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

高崎市は、群馬県の中央部に位置し、西部には県境を形成する山並みが連なる。この山域を源流とする利根川支流烏川が市を東西に横断するように流れており、標高400～800mではスギ・ヒノキ、標高800～1600mではカラマツが良好に成林している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

磯村産業(株)は、明治時代に烏川流域の広葉樹林約1,036haを薪炭林として国から購入した。創業当時から全域が保安林に指定されており、「水を守り 森を守る」を経営理念としながら、森林の公益的機能の維持増進を目的とした森林経営を継続している。薪炭生産後の伐採跡地は植栽を進め、現在は約47%が人工林となっている。平成20年代半ばから経営の黒字化を意識し、森林経営計画の策定や機械化を進めた結果、素材生産量は10年間でほぼ倍増している。

・受賞者の特色

(1) 広大な社有林を生かした優良大径木の生産

100年以上にわたり、良質材の生産を目的とした森林の整備・管理を継続した結果、100年生以上のスギや広葉樹の優良大径木が社有林に生育しており、市場には出回らない規格の長尺材等、地域の需要に応じて供給している。また、適期の枝打ち、間伐によって年輪幅の均一な通直材を生産しており、群馬県の優良素材展示会に出品された素材は、これまで最優秀賞の受賞を20回以上獲得している。

(2) 先端技術の活用

タブレット端末を搭載したハーベスタによる造材データの記録、既設路網のデータ管理およびGPS端末による作業員への共有等、作業の省力化に向けて様々な先端技術を活用している。また、群馬県や日本技術士会群馬県支部と連携して、ドローンを活用した森林調査の検証フィールドとして社有林を積極的に活用している。

・普及性と今後の発展方向

自社の林業経営を持続するため、作業員の年齢構成の平準化や人材育成を積極的に進めている。さらに、森林組合や国有林からの請負事業量を増やすことで、機械稼働率を向上させ、経営規模を拡大していく見通しである。また、地上レーザー等により社有林の資源情報を収集し、大径木のデジタル管理等、情報の見える化を図ることで、プロダクトアウトからマーケットインへの転換による新たな需要拡大も見据えており、今後も水源林の保続的管理や地域林業への多大な貢献に期待できる。